

# 60th Anniversary

茨木高  
24期

榎原美子(郷原)  
鈴 千賀子  
水内 潔  
藤原弘邦

市川 幸衛  
咲間 穂二  
田上 真成  
西口 重秋

茨木高  
32期



両中高と  
同じ歳になりました



相馬 すみひこ  
(茨木中高・平成19~21年)

平素のご無沙汰ご容赦下さい。

両中高60周年記念事業に際しましては、学院関係者、山桜会をはじめとする卒業生の皆さんには誠にお世話になりました。紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。近況をお話ししますと、校長職を退いて2年目になりますが、幼小中高全体に関わりながら、どくに学校評価・教員評価・教員研修を中心とした仕事をしています。おかげさまで、この夏には幼稚園のドイツ・フィンランドの幼児教育の視察に同行しました。報告は学院報「リベルタス」18号をご覧下さい。国内でもいくつかの幼稚園や保育園を見学し、最近は幼児教育についての認識を深めました。学校で、生徒とともに活動した時代が懐かしく、今後とも卒業生の皆さんのが活躍を楽しみにしています。

## 追手門学院中・高等学校、追手門学院大手前中・高等学校創立60周年記念 「両中・高創立60周年記念の集い」開催 ご報告

平成22年10月3日(日) 午後4時

大阪城スクエア(追手門学院大手前中・高等学校本館6階)にて

『錦城のいらかは高く～♪♪』何百回いや何千回、何万回と歌われ続けて来ただろうか?我々卒業生を初め在校生諸君も含めて数万人に及ぶ関係者が口ずさんで來たのです。小学校、茨木、大手前中高、そして大学に幼稚園と、八束周吉先生の作詞の中に本学の『学び』教育の原点を語り続けてきた校歌なのです。そんな学院の歴史の中、中高60周年を迎えることが出来ました。人で言えば還暦に当たる年、一巡して更に一からの出発の年に、茨木、大手前の合同記念の集いが催されました。

茨木から退職された恩師や現役の先生方、同様に大手前の先生方や両校の卒業生を含め約200名が参加、大木理事長の挨拶にて開催されました。山桜会より川原会長が、両校にお祝金を贈呈した後、吉村教頭(茨木)のスライドによる「両中・高60年の歴史」を披露、途中懐かしい校舎や行事、又、両校の演劇部が全国大会入賞の活躍の映像が写ると参加者から歓声が起るなど、和やかに式典が行われました。佐々木校長(茨木)と南校長(大手前)による近況報告とお話の中では、お二人とも両校がより協力しあい、お互い良きライバルとして共に頑張って行こうとの強い意志が感じられました。その後、落合学長の乾杯にて懇親会に移行しました。中ほどには、「追手門学院の履歴書」に掲載された方々に、司会の高田薰氏(大手前24期卒)より会場の演壇にてインタビューがありました。

参加者の方々は大阪城を眼下に新しくなった校舎や思い出話に花を咲かせて、竜田院長の挨拶の後、我々の母校は更に未来に向かっての発展のスタートとなる『記念の集い』として、参加者全員がそんな心を込めて、『栄えある学院、吾らの学院 追手門～♪♪』校歌齊唱にて閉会となりました。

広報委員会 委員長 生川 紳一郎 (小75・大中高18期)

